

# BK

「いま」を伝え、「未来」を育てる

# ビジネス香川

ビジネス香川 検索

VOL.175 2015年8月20日発行

**NIKKEI**  
日本経済新聞の朝日版  
0120-21-4946  
**朝日新聞**  
朝日新聞の朝日版  
0120-33-0843

ビジネス香川は発行部数10万部、香川県内の日本経済新聞(一部地域除く)と朝日新聞の読者に家庭版込みでお届けしています。



外壁に鮮やかな木々が描かれた四国こどもとおとなの医療センター＝善通寺市仙道町

## アートで 病院に安らぎを

**Prime Person** プライムパーソン

四国こどもとおとなの医療センター  
院長

**中川 義信**さん

白い外壁の大きな建物には、たくさんのハートの実がなるカラフルな木々が描かれている。国立病院機構が運営する香川小児病院と善通寺病院が統合し、一昨年5月に開院した総合病院、四国こどもとおとなの医療センターだ。鮮やかな外観だけでなく、病院の名前もまたユニークだ。「患者さんが緊張せずに過ごせる癒やしの環境を作ろうというのがコンセプトです。名前を決めるのにも3年かかりました」

センターは、全国的にも数少ない胎児の出生前診断や小児の心

臓手術も手掛ける国内有数の医療拠点だ。中四国唯一の国指定の小児救命救急センターで、専用のヘリポートも持つ。だが、最先端の医療体制に加えて中川義信院長(65)が特に重視しているのが、患者の心のケアだ。

「赤ちゃんからお年寄りまであらゆる患者さんに寄り添える病院を作りたい」。そう決意を取り入れたのは、医療とアートの融合だった。

編集長 藤田 正典  
写真 太田 亮

■2面に続く

独立行政法人中小企業基盤整備機構(中小機構)補助金事業

### 「中小企業・小規模事業者経営力強化フォーラム」in香川

消費税率の引き上げにより変化した消費行動を学ぶと共に、消費税率の転嫁を適切に実施することの重要性の理解を通じて、中小企業・小規模事業者等に経営力の強化や収益改善のためのヒントを得ていただくことを目的に開催いたします。

参加費  
無料

**8/27**木

中小企業の経営者、役員、従業員、  
小規模事業者やご家族の方、  
支援機関等の方対象

10:00~12:30(開場9:30)  
場所:高松センタービル  
会議室

●JR「高松」駅より徒歩10分  
●ことぞん「高松駅南口」駅より徒歩6分  
〒760-0023 香川県高松市東2-4-20

経営力の強化や収益改善に役立つ  
ヒント満載のフォーラムです。

開催プログラム

- 森永 卓郎氏…  
基調講演「付加価値を高める企業経営」
- 中小企業庁 財務課長…  
「消費税率の状況と中小企業・小規模事業者対策のポイント」(座席)
- 経済産業局 消費者転嫁対策室長…  
「消費税率の転嫁拒否行為に対する対応」(座席)
- 小宮 コンサルタンツ…  
「消費税率引上げ後の消費行動」
- 内閣府…  
マイナンバー 社会保障・税番号制度



基調講演 森永卓郎氏  
(もりなが たくろう)

経済学博士・東京大学経済学部教授、日本経済出版社、日本経済新聞社、読売新聞社「経営者」編集委員等を歴任。2011年から、日本経済新聞社「週刊」「東洋経済」リサーチ＆コンサルティングの編集委員を務め、東京経済大学客員教授。

お申し込みはこちらのネットから <http://www.keiei-forum.jp>

主催/経営力強化フォーラム事務局 後援(予定)/中小企業庁 中小機構  
経営力強化フォーラム事務局 TEL:03-6418-7597 FAX:03-6418-7099



# 1日24時間1年365日、 全ての患者を受け入れる

Prime Person プライムパーソン 中川 義信さん

## 壁に穴が開かなくなった

センターの前身、香川小児病院の思春期病棟には、不登校や家庭内暴力などで心や体に深い傷を持つ子どもたちが入院していた。病棟の廊下の壁は子どもたちが殴ったり蹴ったりして開けた穴だらけで、修理してもすぐにまた穴が開いた。「何とかならないか……」。院長だった中川さんは頭を抱えていた。

2008年、入院している甥のお見舞いに来ていたアートディレクターの女性と出会った。現状を相談すると、「絵を描いてみましょうよ」。長さ約60cmの壁に色とりどりの大きなクスノキを描いた。子どもたちも一緒に描いた。すると、「それ以来ピタッと穴が開かなくなりました。絵に癒やされて子どもたちの心が落ち着いてたのか、アートにはとても大きな力があると実感しました」

当時、国の病院再編事業に伴い、老朽化した香川小児病院と普通寺病院を統合し新センターを作る計画は日々進んでいた。しかし、急ぎストップをかけた。「アートを全面的に計画に組み込むことにしました。外観は茶色か褐色になる予定でしたが、設計士さんをお願いして変えてもらいました」

こうして誕生した新しいセンターには、いたるところにアートが取り入れられている。

窓の無い手術室の壁には風が吹き込む窓を描き、天井にはストレッチャーで運ばれてくる患者の目線で讃岐富士を描いた。廊下の壁には小さな棚を作って美術作品や花を置き、入院患者が好きな絵を選んで病室に飾れるようにと画家や美大生が描いた絵画を200枚購入した。受付ロビーには子どもたちが遊べる大きなからくり時計もある。

看護師の白衣もやめた。動物のイラストが入ったカラフル

な看護衣は子どもたちに好評だ。「病院というのは独特の臭いがして、真っ白な服を着た看護師に注射されると怖いイメージがあると思うんです。可愛い看護衣だと、赤ちゃんに手を差し出したら、手を差し出し返してくる。やっぱり安心するんでしょうね」。今ではアートは、子どもだけではなく、成人の患者や病院職員の癒やしにも繋がっていると中川さんは話す。

## 選ばれる病院へ

「開院して2年余りが過ぎましたが、まだまだ道半ば。大切なのはこれからです」

センターは独立行政法人の国立病院機構が運営するが、国費で賄われるのは研究費の一部程度で、経営は診療収入など病院の自己資金でやっていかなければならない。センターの建設費約200億円も全額自腹だった。

「病院経営を成り立たせるのは、やはり良い治療です。良い結果を出して患者さんに選ばれる病院にしなければいけない。アートもそのきっかけになればと思っています」

選んでもらうために掲げている信念がある。「スタッフには1日24時間1年365日、全ての患者さんを断らずに受け入れるよう言っています」

現在医療の世界は、病院の規模や設備に合わせて役割分担していく機能分化の流れにある。国は総合病院や大学病院に対して、急性期や重症患者を治療する高度医療に特化するよう求め、紹介状が無いと診てもらえないところも少なくない。だが、中川さんの考えは違う。「子どもはどこからが急患なのか分かりません。熱を出した、嘔吐したと、親は夜中でも子どもを抱えてやってきます。その状況で紹介状が無かったらダメですよとは言えません。これは医師になりたての頃、尊敬する恩



師に最初に教えられたことでも。「症状が重い軽いに関係なく、年齢にも関係なく、地域に必要な医療を提供する。これが私たちの果たすべきことだと思っています」。センターには、年間に時間外の急患が2万人、救急車が4000台入ってくる。県内の医療機関では最も多い数字だ。

## たまたま巡り合った小児医療

小学生の時、野口英世の伝記を読んで感銘を受け、命を救う最前線に立ちたいと医師を志した。小児脳神経外科を専門に歩んだが、「実は小児病院へ行きたいと手を挙げたわけではなかったんです」

徳島大学医学部を卒業後、外部の病院で研修することになった。候補の研修先は小児病院から大人の病院までいくつかあったが、大学の医局から割り当てられたのが、たまたま香川小児病院だった。「小児医療に携わると子どもの成長を見続けられます。高校や大学に入った時、報告をしに訪ねて来てくれる子もいる。そういうのはとてもうれしいですね」

香川小児病院で医師としてのスタートを切って今年でちょうど40年になる。命の最前線に立つことでつらい思いをすることも多かった。しかし、脳腫瘍が目が見えなくなった患者に手術をしたら次の日には目が見えるようになった。寝たきりで目を覚まさなかった患者が治療を経て自分の足で歩いて退院していくこともあった。決して忘れることのない光景だと振り返る。

「たまたま小児病院に振り分けられて今の私があります。患者さん一人一人を治すという喜びに

加え、これだけ大きな病院の建設にも携わることが出来た。人生とは不思議なものですな」。中川さんはしみじみと語る。

アートを全面的に取り入れる新たな試みは当初、国や他の病院から強い反発があった。だが、開院後は全国から100を超える自治体や病院が視察に来ている。既に次の新たな試みも始めている。タイ、モンゴル、上海などの病院や大学と交流を深め、アジアをエリアとした選ばれる病院をつくりたいと話す。

「国際的な仕事をして、若いスタッフにも海外を経験させてあげたい。世界中から、こんなところはどこにもないと言われるような病院にするのが次の目標ですね」

## なかがわ よしのぶ

1950年 徳島県生まれ  
79年 徳島大学医学部医学科卒業  
徳島大学病院 脳神経外科医員  
国立療養所香川小児病院 外科医員  
健康保険専門病院脳神経外科医長  
徳島大学医学部講師などを経て  
2003年 国立療養所香川小児病院 院長  
13年 四国子どもとおとの医療センター 院長

## 国立療養所香川小児病院 四国子どもとおとの 医療センター

〒760-0801 香川市松山2丁目1番1号  
TEL.0877-62-1000 / FAX.0877-62-6311  
開院 2013年5月  
病床数 一般病床567床、精神22床 計689床  
診療科 小児科、産婦人科、内科、外科  
脳神経外科、婦人科など47診療科

【白鷺】  
【普通寺病院】  
1897年 第11師団普通寺丸亀陸軍病院の名称で創設  
1936年 普通寺陸軍病院に改称  
45年 国立普通寺病院として発足  
2004年 独立行政法人国立病院機構 普通寺病院となる  
【香川小児病院】  
1897年 第11師団陸軍病院として創立  
1945年 国立普通寺病院状況見分として再発足  
56年 国立普通寺病院から分離し 国立香川療養所に改称  
75年 国立療養所香川小児病院に改称  
2004年 独立行政法人国立病院機構 香川小児病院となる



壁には窓、天井には讃岐富士が描かれた手術室



スタッフはカラフルな看護衣を着て業務にあたる